



鳴き声の大合唱から2週間が過ぎ、少しずつ笑顔で過ごせる子が多くなりました。

0・1・2才の幼い子どもたちなので、言葉よりも泣いたり笑ったりの表情で表現することが多い毎日ですが、それでも片言の言葉（喃語）を駆使して保育士に何かを訴えている姿も見られ、逞しささえ感じています。

新入児は、慣らし保育から通常保育となって、長い時間保育園で過ごすようになり、随分と園生活に慣れてきていると感じます。

クラス担任ばかりでなく、他の保育士とも関れるようになった子どもも多く、「あっこ！！（抱っこ）」と手を広げ求めてきてくれる姿も見られますよ。

なんといっても、驚くのは食欲!!

どのクラスも、ほぼ毎日完食で嬉しい悲鳴です。給食さんも食べる様子を見に来ては、目を細めていますよ。

これからは、気持ちの良い季節となりますので、出来る限り外へ出かけ、自然や近隣の方々との交流をしながら、成長や健康増進に努めていきたいと思えます。

パパ・ママが安心してお仕事に専念できるよう頑張りますので、健康管理などご協力のほどよろしくお願いいたします。



### <つぶやき>

012 青い鳥保育園の時期の子どもたちの成長はどれほど目覚ましいのでしょうか？

生まれてすぐの赤ちゃんは、半年もたつと自ら寝返りをし、自分の身体をコントロールし、人、自然物との触れ合いの中で様々な能力が育っていきます。月日を重ねるごとに、大人の行動を真似して心身の発達を促していきます。特にパパ・ママなどと同じものを見て、自分の気持ちを共感してもらおうという体験は、自己肯定感を育て、心の発達の基礎となります。（保育園での保育士やお友達との時間も大切な時間と考えています）

現代は、メディアが発達し、いろいろな便利なグッズも多くありますが、子どもたちにとってはとても危険な場合も少なくありません。特に、テレビやDVD、スマホ、タブレット等を子どもに子守りがわりに長い時間、見せておくと「静かにしてしてくれる」「集中する」等、忙しい大人にとってはとても便利なグッズですが、子どもにとっては、心身の健康に悪影響をもたらす危険なものと化すことも多いと言われてしています。

表情がない・言葉の遅れ・一方的にしゃべる・自発的なあそびをしない・思い通りにならないとパニックになる・戦いごっこを好む（凶暴になる）等、大切な子どもたちをこの悪影響から守るために、すこやかに育てもらうために、メディアに頼り過ぎず、親子での時間を大切に、一緒に身体を動かしたくさんの会話やスキンシップをして親子の絆を築き（これがとても大切です）、心身の発達を促していきましょう。

時に、子育てが苦しくなるパパ・ママもいることでしょう。そんな時は、一人で抱え込まず周りの人に助けをもらいましょう。保育園も相談窓口の一つと思っています。お声かけくださいね。